２０２２年１２月４日
発議者　黒滝将希

議題：北海道支部構成員による銃砲管理の強化に向けて

背景

近年、北海道支部会員による銃砲管理の杜撰さが目立っている。遠征など他支部との交流の際に関係者に迷惑をかけることになる上、最悪の場合は銃砲が他者の手に渡り悪用されかねない。そのため、銃砲を扱う者としてその安全管理は徹底されなければならない。ISSF 競技規則集にも「安全は最優先課題である」（GTR6.2）とされており、昨今の個々人の管理体制の改善は急務であると判断したと共に、次に挙げる事例１をうけ学連会長の袴田から指導の徹底を要請されたため各校が集合するこの場で議題とした。

事例

1. ２０２２年度の全日本大会（インカレ）において、北海学園大学の部員三名が自身らの射撃順がない日に空気銃を携帯せずに大会会場へ入場していた。会場で許可証の置き忘れが発見され、届けられた際空気銃がそばにないことから不携帯が発覚。急ぎ宿泊先ホテルまで戻り空気銃を管理下に置かせた。

2. ２０２１年某日、北海学園大学の部員が宮の沢屋内競技場から帰宅する際、車に空気銃を立てかけ他の荷物を積み込んだ後、立てかけていたことを忘れそのまま発車した。帰路途中で思い出し、競技場職員に電話で連絡を入れたのち駐車場へ戻った。

3. ２０２２年の冬学にて北海道大学の部員が昼食を買いに行くためコンビニへ出かけた。この際空気銃を携帯せず買いに行ったため始末書処分とした。

4. 大会でのフォローアップ検査時に、用検室に空気銃を置いたまま許可証を携帯して退室したり、どちらも置いたまま退出するケースがしばしば見受けられる。いずれも始末書提出を行わせている。

5. その他、空気銃の取り違えやガンロッカーのカギ紛失なども発生している。

学連本部見解等

以下、本部役員による見解を発議者とのメールより抜粋して掲載する。（必要により変更を加えている）

学連会長　袴田

袴田→黒滝主将

自宅ガンロッカーに収納施錠すれば保管だが、持ち出した時は帰宅収納まで十分注意すること

宿泊先のホテルに置いたまますぐに戻れないほどの距離の外出は保管ではない

持ち出したら自己の支配下に置く必要がある

日帰りの車移動でも、食事をする時は店内持込=自己の支配下=が原則

銃器実包の適正な自己管理を定期的に指導すること

指導と提案

- **北海道内**

　普段の宮の沢での練習や大会時から許可証と銃砲のセットでの携帯を徹底すること。練習時等に外食へ行く際は宮の沢の貸し出しロッカーに収納し鍵と許可証を携帯するか、銃砲ごと外食先へ持ち込む。この際**車内などへの放置は禁止である。**

- **遠征時**

　例として、今年度のインカレ遠征における事例を防ぐならば常に銃を持ち運ぶことが一番の解決方法である。しかしながら北海道勢の遠征は地理的関係により、射撃順のない日は観光に費やされることが主である。その際も持ち歩くことが非常に望ましいが特に女性射手などにはかなりの負担となる。そこで団体での遠征の際は射群の当たっていない人物に部屋番を任せ、ほかが観光をすることで常に見張りをつけることが可能であると考えられる。または滞在先ホテルの自室ベッド下またはタンス・ロッカーの中などに「**鍵付きガンケース**」で隠すことを提案する。しかしこれはあくまで持ち歩きが身体的理由で困難な場合の提案であり、基本は携帯することを求める。

　ただ滞在先ホテルからほど近いコンビニやコインランドリーなどを利用する場合は部屋での保管で構わない。これは会長の言う「すぐに戻れない距離の外出」に該当しないためである。

- **普段の指導**

　大会時のフォローアップ検査における事例も発生させることのないように、各校での新入生教育や空気銃所持後の指導、学連練習会での講習を通して身につけさせていただきたい。その他大会ごと開会式の際に呼びかけるなど都度意識づけをすること

で今後の管理事故を発生させないよう努めていただきたい

　また、遠征時に有効な手段であると考えられるため、各校で鍵付きガンケースを所有し、遠征する者へ貸し出すなどの対策も求めたい。

　以上のことを今月の学連練習会にて正会員なども含めた代表者会議にて検討して頂くことをお願いする。